

- 3 1章 MCGグループがめざす姿
- 4 社長メッセージ
- 9 グループ理念
- 11 価値創造モデル
 - KAITEKI実現に向けたアプローチ
 - 13 Science
 - 15 Value**
 - 18 Life
- 20 2022年度活動報告
- 22 2章 持続的な成長戦略
- 56 3章 ESGの強化
- 95 4章 財務・非財務情報

KAITEKI実現に向けたアプローチ

Science. Value. Life.

私たちの生み出すものは、Value。
たゆまぬポートフォリオ改革で、
全てのステークホルダーに価値を提供

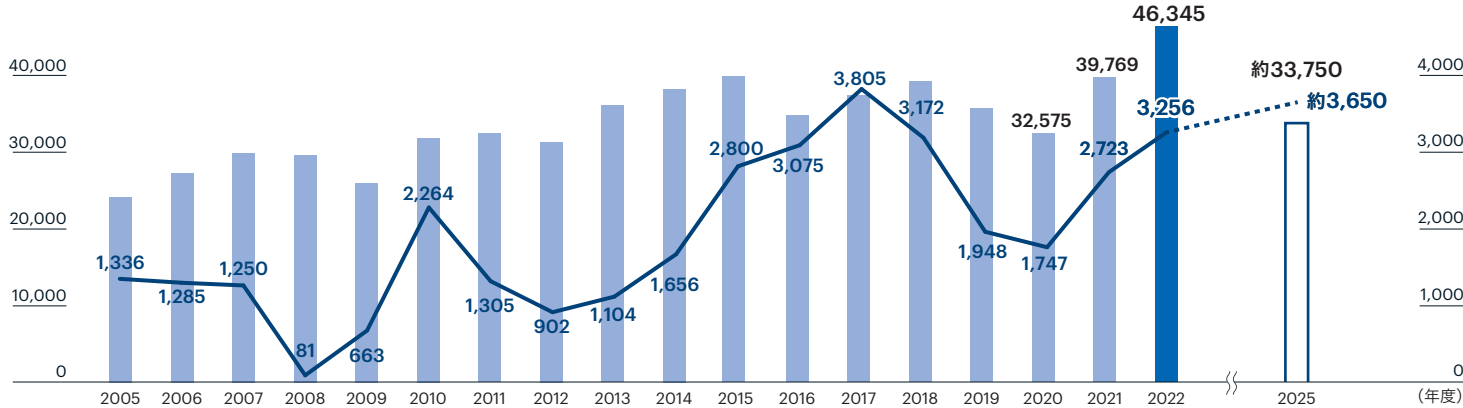
顧客や株主をはじめとする全てのステークホルダーにとっての価値最大化をめざし、経済効率性を重視した経営(Management of Economics: MOE)を推進しています。たゆまぬポートフォリオ改革により健全な財務基盤を構築するとともに、グローバルな主要トレンドを踏まえた成長性の高い市場に経営資源を集中し、合理的な判断に基づく事業運営の実行により収益力を強化していきます。

事業戦略 ▶P.34



売上高(収益)(コア)営業利益の推移

(億円) ■ 売上高(収益)(左軸) — (コア)営業利益(右軸)



M&A・統合による企業規模の追求、不採算事業の構造改革

機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす

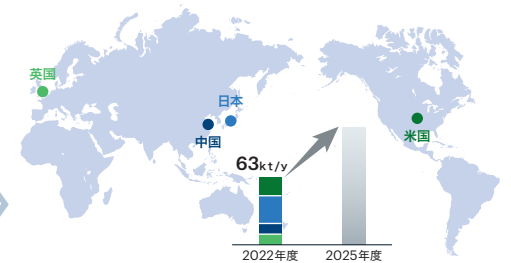
効率性を追求した事業運営と事業の成長力を引き出す明確な戦略のもと、全てのステークホルダーにとっての価値の最大化をめざす

リチウムイオン電池(LIB)用電解液の Value



LIB市場成長に伴う生産能力拡大

目まぐるしく変化を続けるLIB市場の中で、車載用途を中心とした市場をターゲットと定め、2025年度までにマーケット全体のシェア25%獲得をめざしています。シェア獲得のため、急拡大する需要に対応可能な生産体制づくりと安定した原料調達をグローバルで進めていきます。



直前に見えていたページに戻る

KAITEKI実現に向けたアプローチ

Science. Value. Life.

たゆまぬポートフォリオ改革を推進し、
持続的に企業価値を向上していきます

中期経営計画とポートフォリオ改革

● 成長施策 ▲ 構造改革

(コア)営業利益内訳実績

<p>2005~2007年度 革新-Phase2</p>	<p>営業利益 目標 1,400億円以上 実績 1,250億円</p>	<p>医薬事業の比率を高め、 景気変動に左右されにくい 収益構造へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 三菱ケミカルホールディングス設立(2005年) ● 田辺三菱製薬発足(2007年) 	<p>機能商品 33% 素材 18% ヘルスケア 46% その他 3%</p>  <p>2007年度</p>
<p>2008~2010年度 APTSIS 10</p>	<p>営業利益 目標 1,900億円 実績 2,264億円</p>	<p>機能商品分野の拡大 高付加価値事業に ポートフォリオをシフト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 三菱樹脂、三菱化学の機能材料事業・ 関連会社(3社)を統合(2008年) ● 高機能エンジニアリングプラスチック事業の Quadrant AG 連結子会社化(2009年) ● 三菱レイヨン連結子会社化(2010年) ▲ ナイロンチェーン事業撤退(2010年) ▲ 塩ビチェーン・SM チェーン事業撤退(2011年) 	<p>機能商品 16% 素材 47% ヘルスケア 37%</p>  <p>2010年度</p>
<p>2011~2015年度 APTSIS 15</p>	<p>営業利益 目標 2,800億円 実績 2,800億円</p>	<p>素材分野の構造改革、 産業ガス事業連結化による 収益安定化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ポリオレフィン生産最適化(2014~2015年) ● 大陽日酸連結子会社化(2014年) ▲ 鹿島(現茨城)ナフサクラッカー 1基化(2014年) ▲ 水島(現岡山)ナフサクラッカー JV共同運営化(2016年) ▲ テレフタル酸インド・中国事業株式譲渡を決定(2016年) 	<p>機能商品 27% 素材 36% ヘルスケア 37%</p>  <p>2015年度</p>
<p>2016~2020年度 APTSIS 20</p>	<p>コア営業利益 目標 4,100億円 実績 1,747億円</p>	<p>機能商品分野の成長加速 事業再構築による 基盤強化と成長分野への投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 三菱ケミカル発足(化学系3事業会社統合 2017年) ● 中東MMA新プラント本格稼働(2018年) ● M&Aによる産業ガスのグローバルシェア拡大(2018~2019年) ● 田辺三菱製薬完全子会社化(2020年) ▲ LSIメディエンス株式交換による PHCホールディングス(株)との戦略的資本提携(2019年) ▲ 記録メディア事業撤退(2019年) 	<p>機能商品 35% 素材 57% ヘルスケア 10% その他 △2%</p>  <p>2020年度</p>
<p>2021~2025年度 経営方針 「Forging the future 未来を拓く」</p>	<p>EBITDA 目標 約6,000億円</p> <p>コア営業利益 目標 約3,650億円</p>	<p>企業価値最大化に向けた 「選択と集中」—— 市場の成長性、競争力、 サステナビリティにフォーカスした ポートフォリオへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▲ アルミナ繊維事業の譲渡(2022年) ● 三菱ケミカルグループへ商号変更(2022年) ▲ 英国におけるMMA生産終了(2023年) ▲ Muse細胞を用いた再生医療等製品の開発中止(2023年) ▲ Medicago Inc.事業撤退(2023年) 	<p>EBITDA目標内訳</p> <p>スペシャリティ マテリアルズ 39% 産業ガス 41% ヘルスケア 10% MMA 10%</p>  <p>2025 年度目標</p>

3 1章 MCGグループがめざす姿

4 社長メッセージ

9 グループ理念

11 価値創造モデル

KAITEKI実現に向けたアプローチ

13 Science

15 Value

18 Life

20 2022年度活動報告

22 2章 持続的な成長戦略

56 3章 ESGの強化

95 4章 財務・非財務情報

KAITEKI実現に向けたアプローチ

Science. Value. Life.

サステナビリティをキーワードに
グローバルな主要トレンドを踏まえた7市場に経営資源を集中します

							
注力市場	 EV / モビリティ	 デジタル	 食品	 メディカル	 建設・インフラ	 消費財	 産業
主要 トレンド	<ul style="list-style-type: none"> 電気自動車 自動運転 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体 高速通信 	<ul style="list-style-type: none"> 水資源の保全と食品ロス削減 リサイクル可能な包装 	<ul style="list-style-type: none"> 医療費増大 高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> 人口増加 エネルギー効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 中間層の拡大 製品寿命の延長 	<ul style="list-style-type: none"> サーキュラーエコノミー 二酸化炭素回収・利用・貯留(CCUS)

- 3 1章 MCGグループがめざす姿
- 4 社長メッセージ
- 9 グループ理念
- 11 価値創造モデル
- KAITEKI実現に向けたアプローチ
- 13 Science
- 15 Value
- 18 Life
- 20 2022年度活動報告
- 22 2章 持続的な成長戦略
- 56 3章 ESGの強化
- 95 4章 財務・非財務情報